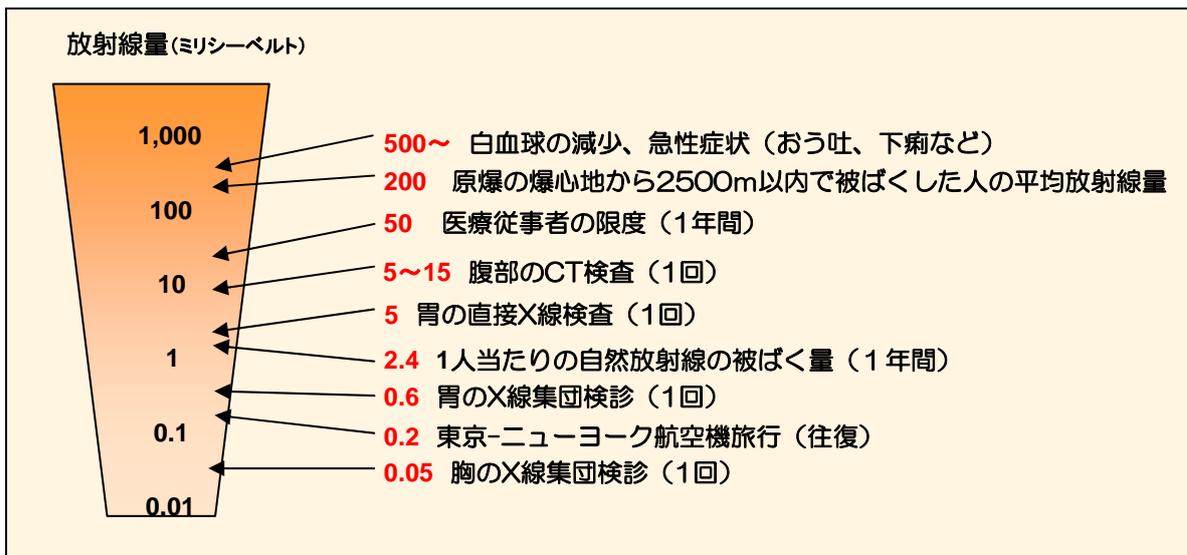


## 放影研のこれまでの調査で明らかになったこと

1. 放影研における原爆被爆者の疫学調査から明らかになった放射線の長期的な健康影響は、1シーベルト（1,000 ミリシーベルトあるいは100万マイクロシーベルト）の放射線被曝により、平均してがんの確率が約1.5倍に増加するということです。このリスクは被曝した放射線の量に比例すると考えられています。国際放射線防護委員会などの考え方に従うと、100 ミリシーベルトでは約1.05倍、10 ミリシーベルトでは約1.005倍と予想されます。ただし統計学的には、約150 ミリシーベルト以下では、がんの頻度における増加は確認されていません。
2. 高線量被爆者（1 シーベルト以上）では、がん以外の病気（白内障、甲状腺の良性腫瘍、心臓病など）も増えています。
3. これまでの研究では、被爆者の子どもへの遺伝的影響は認められていません。

（注）放射線影響研究所では、通常、シーベルトにほぼ相当する単位であるグレイを使用しています。

## 放射線量のめやす



（注）ニュースなどで言われている毎時〇〇マイクロシーベルト、ミリシーベルトなどは放射線量率のことで、1時間ずっとそこにとどまっていたと仮定した場合の放射線量です。